

今後の科学技術協力のあり方

山本太郎

長崎大学熱帯医学研究所

国際保健学分野

発表の論点

- ミッションへの関心
- 日アフリカ科学技術協力の課題
- なぜ、いまアフリカとの科学技術協力か？
- どのような分野の協力が可能か
- どのようにアフリカとの科学技術協力を進めるか？

ミッションへの関心

- ミッションへの関心

- 「科学技術を中心においた国際協力＝**科学技術外交**」といった考え方に「新鮮」な興味覚えたため。
- 開発援助が、技術移転を中心とした協力である一方、「科学技術を中心においた国際協力」は、「**相互受益**」があると考えた。息の長い協力を行うためにはこの相互受益という考え方は非常に重要であると考える。援助には卒業という言葉があっても、「科学技術を中心においた国際協力」に卒業はない。

日アフリカ科学技術協力の課題

- 日アフリカ科学技術協力の課題
→ **相互受益**をいかにはかるかにあると考える。

なぜ、いまアフリカとの科学技術協力か？

- なぜ、いまアフリカとの科学技術協力か？
 - 質問を変えて考えて見ましょう。
 - アフリカとの科学技術協力をいま行わないとしたら、どのような「相互損失」が考えられるでしょうか。
 - 日本は、協力という機会を損失する。援助とは異なる外交ツールの可能性を喪失する。
- なぜアフリカか？
 - アジアもか？

どのような分野の協力が可能か

- どのような分野の協力が可能か
 - 熱帯医学分野での協力は可能。
 - 問題は、開発援助のもとに行われる協力が、住民の直接裨益を目的としたものであるため（それ自体はよいこと）、ニーズもその目的に限定したものとならざるを得ない。一方、科学は「**自由な発想と着想、知への好奇心**」を育むという側面がある。熱帯医学分野で、アフリカ人自身によるそうした自由な発想と着想、知への好奇心に基づく研究、その研究を共同で推進していくといったかたちの協力ができれば、よいのではないかと考える。

どのようにアフリカとの科学技術協力を進めるか？

- どのようにアフリカとの科学技術協力を進めるか？

→開発援助のニーズは依然として高いと思う。

→しかし、**自由な発想と着想、知への好奇心**から出てくる科学研究を支援するといった考え方もあるのではないのでしょうか。具体的には、まだまだつめなくてはならない部分が多いと思いますが・・・